



中南米諸国の出張を終えて

九月五日、パリ航空八一五便で、羽田空港を十九時出発、ロスアンゼルス、リマ、リオデジャネイロを経由し、翌六日十一時ブラジル、サンパウロ市内にあるコンゴニヤス空港に着く。初めての中南米出張である。大きな期待と興味を抱いて、市場への開拓を燃やしながら出発したが、到着早々余りにも整った近代的な建物を目の当たりにして驚いてしまった。

それにしても東京―サンパウロ間を二十八時間を要した空の旅は、若干長いように感じた。ブラジルは、今、冬期から夏期に入る季節であったが、朝夕は日本の初冬を思わせるような肌寒さを感じ、街行く人々は殆んど冬支度をしていた。

先づ最初に同市のT商社を訪ね、ブラジル国内の滞在日程に基づいて、七日からの訪問先を打ち合せ。サンパウロからリオデジャネイロ、ペロポリス、そして再びサンパウロというコースで大手業者を訪ね、同国に於ける建設機械の実態調査を行うことにした。



サンパウロ市中心街、手前は在留邦人が「お茶の水橋」と呼んでいる。ヴィア・ド・ドクト・ト・シヤ橋。

ともいわれている。現在日系人は二世、三世を含めてブラジル全土で七十五万余と推計され、その内サンパウロ市に約五十万人の人口が商業に従事し、同市の発展に多大の貢献をしている。

面について、非常に高く評価されていたことは、今後の販売促進に對し意を強くした次第である。ここから再びサンパウロ市に戻って、市内の各ユーザを廻ることにした。同市は支店管轄で、三笠製品はこの支店を通じて販売され、当地で四〇%を販売している。さすがにブラジル第一の商業都市に事務所を設けているだけあって、各建設業者共企業規模は大きく、広くブラジル各地に工事現場を持つているとのことであった。

特にアマゾン地帯に計画中のハイウェイ（ブラジルのコパカバーナ―海岸）に近づくにつれて、建設機械の需要は、現在、三笠製品は何軒かのサブ店を通じて販売されている。同市は現在、観光都市開発の一環として、コパカバーナ海岸からイパネマ海岸、レブロン海岸一帯に開発工事が進められている。市内に建ち並ぶ高層ビルは、オフィス街と住宅街となっていて、非常に立派なビルが、すぐ裏の山手には、香港のスクラッシュを思わせる貧民住宅がまだ残っていた。道路の補修工事は、二、三カ所に見られただけで、すでにその殆んどが完成された街のようであった。今後は市内より数キロ行った所にある、レブロン海岸と、山を越えた地域開発に、建設機械の需要を期待し得ると思つた。

ペロポリス市は、ミナス、ジエライス州の州都で高原地帯に位置し、市名のペロ、ポリスとは「美しい地平線」という意味で、高層ビルが立ち並ぶ市として、同市周辺には鉱山が多く、あらゆる鉱石と多くの宝石を有しているといわれている。特にドーセ川沿岸には埋蔵量三億トンと推定される世界最大の鉄鉱地帯があり、豊富な鉄鉱をバックに発展しつつある都市でもある。日本技術と資本「新日鉄」の提携に依って創立されたウジミナス製鉄所は有名である。

このように鉄鉱を背景として開発が進められている同市は、サンパウロ市に劣らぬ建設ブームだといふと、各所にその工事現場が見受けられた。三笠製品は二年前より同市を中心として販売され、今では各地で使用するようになったとのことである。当地では今まで殆んど小型機は使用されていなかったが、三笠製品の出現に依り、従来人力に頼っていた現場作業も全く様相を変え、機械の使用率も著しく高まったとのことである。

早速ユーザを廻って見たが、その中の一社で五十数台も機械を保有している業者のあったのは、いささか驚かされた。しかも三笠の名を良く知っていて、その性能と品質

ついで説明を受ける。最近政府は工事を早めたビルや橋梁等の工事が盛んに行われ、これも又建設ブームといつた空気が強く感じられた。ところが既に道路、下水道設備が完備されているため、転圧機の需要は地方都市の開発が進められない限り、余り期待出来ないとの話であった。

現在同市は石油資源の恩恵にあぐらをかき、外貨事情が良くなっている。輸入品が多く出回って来ている。従って国産品と言われる機械も殆んど部品を輸入し、現地で組立てたものを市場に供給しているのが現状である。

各ユーザを廻って見たが、米国内に近い関係上、建設機械関係は米製で占められているといった感じも強かった。ところが最近日本製品も出回り始め、その性能を高く評価されて、追々日本製品に転換する傾向にあるといわれている。

特に輸入機械の場合、その品質、性能もさることながら、なんと一丁も、その販売店のアフターサービスが、販売を促進するの否にかかっている。

この点弊社のC販売店は、これらの条件を完全に備えていると自負しているだけあって、既に今月入荷する振動機の半数を売り切ったと豪語していた。

コロニアの首都ポコタはカラカス空港より二時間、ポコタ市は人口二百五十万を有し、標高二千六百メートルの山間に位置している。従ってこの街に米と気圧の関係から頭がスッパリしなくなったり、物忘れが多くなったり、体調がおかしくなったりして慣れるまでに長い期間を要するとの話であった。

（ベネズエラ、カラカス市のビル建設）に活躍しているパイプレイター

トルに位置するとあってポコタ市より生活は容易でない。裸の山に囲まれたこの街に来て、初めて原住民であるインディオが住んでいるのを見た。彼等は小柄で、肌は東洋人に似ているが殆んど一般的な職業を持っていないとの話であった。

エクアドルは数年前に石油の探掘に成功し、最近では外貨事情も良くなってきた。輸入税、輸入税は高いが自由輸入することが出来るようになってきている。従来から米国の影響力を強く受けていた同市場であるが、経済状況の好転にともない日本商社の進出も目覚しく、建設機械類も未だその一部が市場に進出しただけで、その売込みは日増しに活発になっていくといわれている。

現地販売店を数社訪問したが、建設工事は余り活発でないのが振動機関係を除いては特に興味を示さなかった。しかし近くキトゥンとグアヤキルの間の新設道路五カ年計画に依る地方開発工事が進められるので、これに伴う建設機械の需要も当然多くなるものと思われた。

（サンパウロ市郊外下水道工事現場にて稼働中の80型ランマー）

早速現地販売店を数社訪問して、三笠製品の動向を聞いて見たが、目下景気が低調だから建設工事関係も余り活発ではないが、それでも郊外への開発工事が進められているので、工事内容から見て小型機ならPR如何では相当販路が出来るのではないか。

かくして各国の日本商社及び現地ディーラー及びユーザを親しく訪問して、各種の三笠新製品を紹介説明すると同時に、お扱いの三笠製品の販売促進に今後積極的協力に協力して頂くよう要請して、二十六日リマ空港からアマゾン航空機でロスアンゼルス経由帰国の途についた。

輸出課 ―高野記―

（京谷達也記）

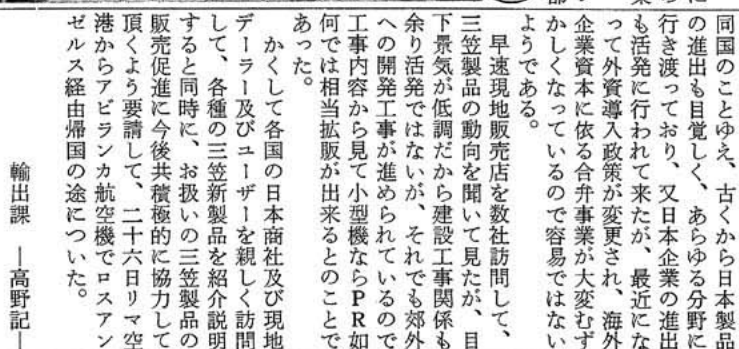
カリフォルニアのレンタル展に参加して

C.R.A.（カリフォルニア・レンタル・アソシエーション）の年次総会と併せて開催される建設展が十月十五日から十八日の四日間、ラスベガスのサハラホテルを会場として開かれ、三笠製品もアメリカ総代理店のマーク社を通じて展示された。その状況を視察し、小林館林工場と共にカナダ、アメリカ各地のディーラーを訪ね、シカゴからラスベガスに入つたのは十月の十六日であった。空港に降り立れば、ぎらぎら照りつける砂漠の太陽は、三〇度を越す熱さである。

マーク社レービン副社長、安宅産業中道駐在員に迎えられて会場のサハラホテルに入つた。この会場となったホテルはメインストリートの中程にある最も大きなホテルの一つである。すでにご存知の方も多いと思われるが、

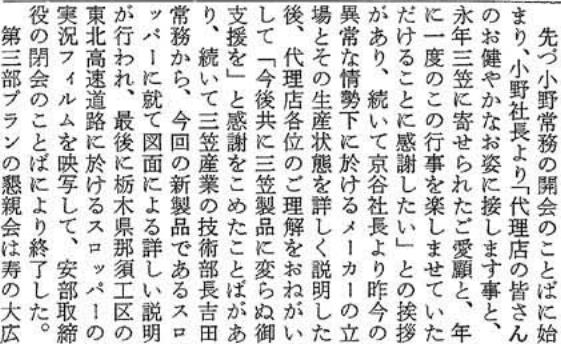
トルに位置するとあってポコタ市より生活は容易でない。裸の山に囲まれたこの街に来て、初めて原住民であるインディオが住んでいるのを見た。彼等は小柄で、肌は東洋人に似ているが殆んど一般的な職業を持っていないとの話であった。

エクアドルは数年前に石油の探掘に成功し、最近では外貨事情も良くなってきた。輸入税、輸入税は高いが自由輸入することが出来るようになってきている。従来から米国の影響力を強く受けていた同市場であるが、経済状況の好転にともない日本商社の進出も目覚しく、建設機械類も未だその一部が市場に進出しただけで、その売込みは日増しに活発になっていくといわれている。

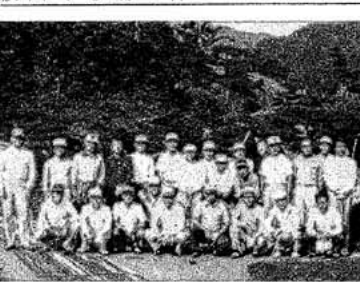


第十七回
(十月八日)

阪に於て開催中の建設機械展示会場内に設置した三笠展示場にお集り願（懇談会に於ける京谷社長の挨拶）



岡市和田機工榑和田社長さんの乾杯の音頭により祝宴に入った。やがてて杯を重ねることに、御自慢の歌に踊りに、いつか秋の夜の更け行くのも忘れ一同すつかり若返って、心ゆくまで楽しく有馬の夜を過すことが出来た。終宴には金沢市森長機械販売



(西宮カントリークラブに於ける)
(三等代理店会の親善ゴルフ大会)

果優勝は佐賀の㈱大鉄鋼機商会下
専務さんに、ベストグロス京都
高石機械産業㈱石橋社長さんが獲
られた。

又来年を楽しみに、精々腕を上
げる事を約して午後四時無事散会
した。

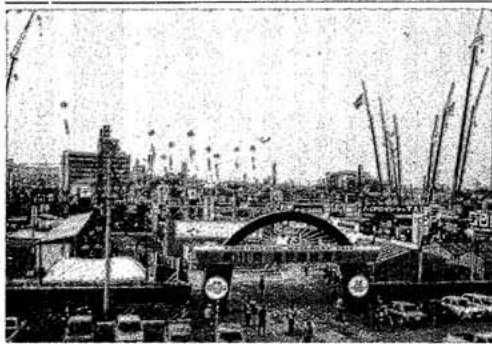
三笠建設機械 安部

会期 十月五日～十一日（七日間）
主催 日本建設機械化協会関西支部
会場 国鉄大阪環状線京橋駅前

大都市における本年度最終の建設機械展として開幕された「第十一回建設機械展示会」は、さる十月五日から七日間、大阪国鉄環状線、京橋駅南側の特設会場において華々しく開催された。

多数の入場者を迎へ七日間で三千八百七十一人（協会発表）と驚異的な盛況振りであつた。

（大阪建設機械展示会場の全景）



（大阪建設機械展示会場の全景）

軽便型エンジン盤クラッチ付、8A型ハンドコンクリートカッターの計七機種の新製品の他に三笠製品を多数出品し小型特殊建設機械メーカーとして代理店をもとよりユーザーの皆様に三笠産業のイメージを更に一段と強く印象づけた展示会であった。

前述の新製品の中でMDRⅡS50型スローパーは今まで特に開発の遅れていた斜面輾圧機として三笠技術陣により製品化に成功したものでその機構は世界に類をみない多数の特許を持つ三笠独創のものである。又その威力を特設された斜面の実演場場で遺憾なく発揮し各方面から注目が集め、価格、能力、取扱等の質問が殺到して、その応対に、そして実演



に詰員が休む間もなく追われる程
あった。

このような盛況の中で三笠西部
区代理店会が十月八日行なわれ、
大阪建設展にて「スロップパー」を
実演中の三笠展示場風景

製品発表実演会が同会場で行なわれ、一段と活況を呈した。

このようにして連日熱心なお客を迎えた展示会は無事成功裡に七時間の幕を閉じたのである。坂本

第2回

貴社のタンピングランマーとパイプロコンパクターの使い道はどう違うのですか、その相違点をお教え下さい。



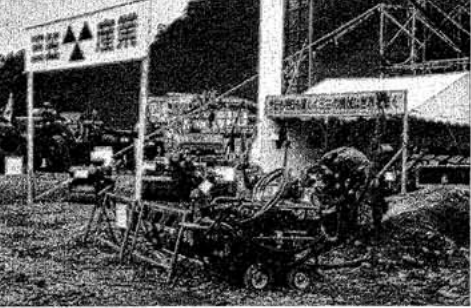
第2回

新潟県柏崎市の島村さんから寄せられましたご質問にお答えいたします。

土を締め固めるということは、簡単に申せば土の中の空気を追い出し土粒子と土粒子との間のスキマをなくして土の密度をたかめ、水の浸入を許さないようにするということになります。そうすれば、道路などで重い車の通過にも

自十月十三日
至十月十六日

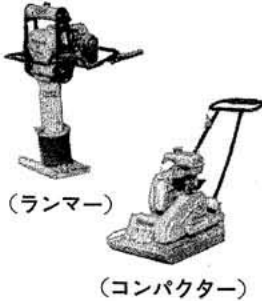
第18回を迎えた静岡建設産業機械が静岡市大岩（旧静大グラウンド）に於て、参加商社30社の協力により大々しく開催された。今回も地元の小間屋さんの小間内



三笠全製品を展示して、入場の方々に各樣にご覧頂いた。今年の新製品品目であるS50型スロップバー、T38型トレンチローラー、1型カッター、8A型カッターを従来の製品と共に展示し、三笠技術陣の研究の成果を批判

自十月十九日
至十月二十一日

日本工業經濟新聞社主催による群馬建設産業展が前橋市々民広場において、華かに開催された。初日一日目とも晴天に恵まれ絶好の展



(ランマー

(コンパクト)

をそのまま起振装置に伝えます。起振装置は偏心振子により強力な円振動を発生し、自走力も又この円振動により起きています。このようにコンパクターは輾圧したまま自走したりするため毎分五千～十千回の高振動になっていて、振動は2～3%程度です。このような高振動であるコンパクターは地盤の表層やアスファルトなどの締

いので、作業能率はやや劣ります。
要するにランナーとコンパクターは姉妹機のようなもので、輾圧作業には絶対欠かせない機械ですから、常に両機を用意されて置くことが、常識となっています。

本欄はどなたでもご遠慮なくご利用下さるようお願いします。

市制20周年記念
春日部市工業物産展

春日部市は、首都圏35キロ圏内に立地する地理的条件に恵まれ、近年の急速な人口増加は、本年十月一日現在で十万八千七百八十八人となり、首都の衛星都市として、発展の一途をたどっている。本市の工業は古くから桐タンス、羽子板の特産地として全国的に知られ、現在では、多くの企業が進出と相まって、経営形態

も次第に近代的となり、市内の工は飛躍的な発展をとり、数多くの品が生産されている。そこで、こたび市内の優秀な工場で生産されている多種多様な製品を一堂に集め市民の皆様の認識を深めていただくと、広く一般に紹介する目的で、2回春日部市商工祭りの市制20周年記念事業の一環として、工業物産が去る十月二十六日から二十八日三日間、春日部市商工会主催のもの春日部市体育館にて、開催された。



けである。我が社も春日部市に工場並びに技術研究所をもち、同市の明日の発展を担う一員として、春日部工場において製作されている、11型ローラー、52型、70型コンパクター、2B型、3型コンクリートカタターを始め、館林工場から応援に加わった7型ゼンローラー、80型ゼンローラー、8A型ハンドカタター等々を展示して多数参観者の注目を浴びた。



東山記

